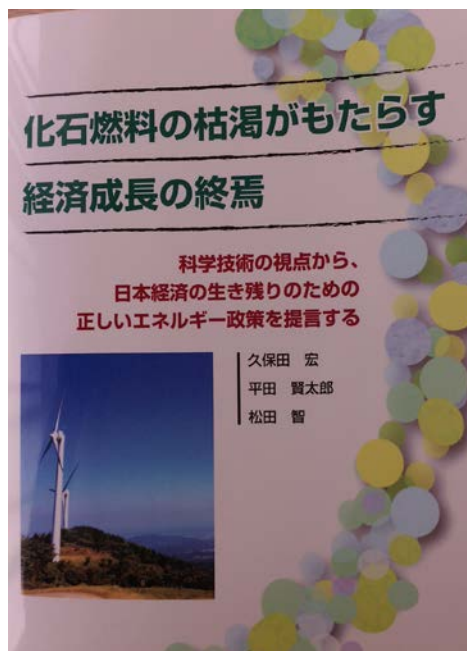


化石燃料の枯渇がもたらす経済成長の終焉 — 科学技術の視点から、日本経済の生き残りのための 正しいエネルギー政策を提言する —



久保田 宏 平田 賢太郎 松田 智

目次

- 第1章 化石燃料の枯渇がもたらす経済成長の終焉
 - 第2章 経済成長の抑制こそが、化石燃料枯渇後の人類文明生き残りの途である
 - 第3章 地球温暖化より怖いのは世界の化石燃料の枯渇に伴う世界平和の侵害である
 - 第4章 3.11 事故後の国民の多数が願う脱原発を実現するために
 - 第5章 化石燃料枯渇後の水素エネルギー社会は幻想に終わる
- 資料編:
- A1 化石燃料の枯渇に備えるべき世界の再エネの導入状況と日本の課題
 - A2 化石燃料の枯渇と自動車文明の将来について考える
 - A3 成長の限界; 食料・エネルギーと世界・日本の人口問題

敗戦による荒廃のなかから立ち上がった日本は、平和憲法を守って、経済優先で、中東の安い石油に支えられて輸出産業を育てるべく科学技術を育ててきました。しかし、いま、地球上で、この経済成長を支えるエネルギー源としての化石燃料が枯渇を迎えようとしています。やがて、その国際市場価格が高騰し、それを使えなくなる国や人々が出てくることは避けられないでしょう。これが資本主義社会における経済成長の終焉です。いま、世界では、この化石燃料（特に高価な石油）の配分の不均衡に伴う貧富の較差が、アルカイダに始まり IS に至る国際テロ戦争と大量難民問題を誘発し、世界の平和に大きな脅威を与えています。

いや、化石燃料の代替に、自然（再生可能）エネルギーや原子力エネルギーがある、さらには、これらの代替エネルギーの開発・利用が、化石燃料枯渇後の社会の新しいビジネスになると主張する人も居られます。しかし、これは科学技術の何たるかを知らない人のたわごとに過ぎません。化石燃料の枯渇に伴う経済成長の終焉のなかで、真っ先に、破綻の淵に追い込まれるのは、化石燃料の全量を輸入に頼る日本経済です。この日本経済の生き残りのために、科学技術者の視点からの正しいエネルギー政策を提言するのが、本書の執筆の目的です。

ご購入を希望される方は、恐縮ですが、製本費用実費 ¥1,000 をご寄附賜れば幸いです。
なお、郵送を希望される方は、郵送費 360 円をプラスして頂きます。

申し込み先； biokubota@nifty.com または kentaro.hirata@processint.com